イヌ乳腺細胞診のスライドを使った遺伝子検査で

# マイクロサテライト解析セット

#### イヌの乳腺腫瘍では...

- ・細胞診での細胞異型所見が悪性度に反映されない ことが知られており、良・悪性の判断がつかない場 合が多くあります。
- マイクロサテライト解析(遺伝子検査)でゲノム不 安定性陽性が示されると、乳腺腫瘍が悪性である可 能性が高いことが示されています。詳しくは裏面 をご参照ください。
- 高齢のため手術が困難な症例や、細胞診の結果のみ では手術に踏み切れない、摘出すべきか迷う症例に 適した検査です。さらに、複数の腫瘤状病変が形成 された乳腺で、個々の病変の良悪を手術前に知って おきたい場合にも有用です。

## 検査概要



### 検査料金

お問い合わせください

ご依頼 方 法 細胞診の検査依頼書に「マイクロサテライト解析 希望 | とご記入の上、乳腺腫瘤塗抹スライド とともに血液塗抹スライド(2枚;風乾のみで 固定不要)も併せてご送付ください。

- ※ 乳腺の上皮細胞が得られていない、または遺伝子検査に十分な腫瘍細胞 比率がない塗抹のみの場合は、細胞診の報告のみで再採取再検査が必要 となる場合があります。
- ※ 送付いただく塗抹スライドには枚数制限はありません。
- ※ 血液塗抹スライドは、2枚とも固定・染色は不要です。遺伝子検査の非腫 瘍細胞由来遺伝子サンプルとして使用します。

#### 遺伝子検査報告様式

#### 「<u>場性」or「陰性」</u>(解析データのピーク図付き)

- ※ 細胞診は弊社受付翌営業日の報告ですが、遺伝子検査は2週間程度のお時間をいただき別報告となります。
- ※ 遺伝子検査は、弊社から有限会社カホテクノ(福岡県飯塚市)への再委託検査となります。

細胞診の結果報告後にマイクロサテライト解析をご依頼いただくことも可能です(血液塗抹を 2枚作製し、弊社で細胞診を行ったスライドを再送ください)。

#### 上記検査後の組織検査割引制度について

乳腺細胞診+マイクロサテライト解析実施後(遺伝子検査報告後3カ月以内)に、同患者より摘出した乳腺の病 理組織検査(プレミア限定)をご依頼の場合には、プレミア検査料金を値引いたします。 詳しくはお問合せくだ さい。

## イヌ乳腺細胞診

## マイクロサテライト解析について

#### ゲノム不安定性とは?

正常な細胞が分裂するとき、遺伝情報は子孫の細胞に正確にコピーされます。万が一コピーミス(遺伝子の変異)が起こっても、それを修復するメカニズムが細胞にはもともと備わっています。

しかし、がんの発生過程においてこのメカニズムが正常

を保てなくなると、子孫の細胞は正常細胞とは異なる間違った遺伝情報が伝わってしまいます。これを「ゲノム不安定性」といいます。もしもある組織でゲノム不安定性が起こっていることがわかれば、その組織が腫瘍性であることの強い証拠となります。

#### 検査方法

ゲノム不安定性の有無は「マイクロサテライトマーカー」\*\*を調べることで判定します。検査材料として腫瘍細胞を含む塗抹スライドと、その個体の正常細胞(血液塗抹)の2つをご提出いただきます。それぞれからゲノムDNAを抽出し、いくつかのマイクロサテライトマーカーを検査して、両者を比較します。

ゲノム不安定性は、両者で異なるピークパターンとして

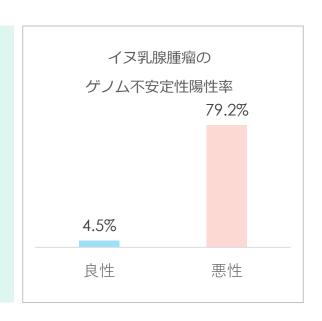
検出され、もし1つ以上のマイクロサテライトでこのような違いが確認されれば、その組織でゲノム不安定性が起こっていることを意味します。

※マイクロサテライトマーカー 1~6塩基の繰り返しからなる特徴的な配列を持つ 遺伝子領域。繰り返しの回数が個体によって異なる ため、親子鑑定や個体識別にも利用される。

#### 検査精度

イヌの乳腺腫瘍組織においてもこのようなゲノム不安定性が見られるケースがあることが知られていましたが、これまでの研究で、ゲノム不安定性が見られたイヌ乳腺腫瘍組織では、病理組織検査で悪性と診断される割合が顕著に高いことが明らかにされています。具体的には、病理組織検査で悪性と診断された乳腺腫瘍組織では79.2%でゲノム不安定性が陽性(悪性腫瘍の検出感度)であったのに対し、良性では4.5%(特異性95.5%)のみが陽性でした(右図)。

なお、本検査では炎症性乳癌は陰性となることが明らかになっています。また、骨外性骨肉腫等の間葉系腫瘍については知見が得られていません。検査実施の際にはご留意ください。



#### 検査結果の解釈

マイクロサテライト解析を実施して陽性となった場合、その乳腺腫瘍組織は悪性である可能性が高いと言えます。一方、陰性となった場合は悪性であることの根拠は得られなかったことになりますが、検出感度が8割程度

であることから、悪性の可能性を完全には否定できない ことに注意する必要があります。手術の適否を判断す る際は、臨床症状など総合的に判断してください。

以上、委託先力ホテクノ社資料より転載